

明治安田生命保険相互会社と健康増進に関する連携協定締結

町と明治安田生命保険相互会社は9月1日、健康増進に関する連携協定を締結。併せて同社は、町に寄付目録を贈呈しました。

協定書には、宮坂町長と同社苫小牧支社の小林聡支社長が署名。宮坂町長は「連携を密にして、町が進める健康増進や健康づくりに取り組みたい」と語り、小林支社長は「地域の皆さんの健康寿命の延伸や活性化につながるよう、一緒に汗を流したい」と話しました。今後、健康づくりや生活習慣病の予防、感染症対策などで町民の健生活を促します。



協定書を手にした小林支社長と宮坂町長



百寿の祝い品を手にする遠藤さん

遠藤スイ子さんに百寿の祝い品贈呈

町は9月5日、京町の遠藤スイ子さんに百寿の祝い品を贈呈しました。

スイ子さんは、長男賢一さん夫婦と同居中で、足が弱く外出する機会は少ないそうですが、食欲はあり新聞を読んだりテレビを見て穏やかに過ごしています。

宮坂町長は、自宅を訪ねてスイ子さんに賞状と記念品を手渡し、「これからも長生きしてくださいね」と優しく声を掛けて長寿を祝いました。

鶴川漁協厚真支所ホッキ部会の西舘純之部会長は9月5日、町教委に学校給食用の殻付きホッキ貝200kgを贈りました。

ホッキ貝は、前浜で水揚げされた天然物で、旬の時期を迎えています。漁港で箱詰めされた貝は、西舘さんから遠藤教育長に手渡されました。西舘さんは「うま味が凝縮された自慢のホッキです。たくさん食べてください」と話すと、遠藤教育長は「学校給食を通じて、郷土への理解を深めさせていただきます」とお礼を述べました。ホッキ貝は15日、町内のこども園から高校までの学校給食でホッキカレーとして提供されました。

鶴川漁協厚真支所ホッキ部会が町教委にホッキ貝を寄贈



遠藤教育長にホッキ貝を寄贈する西舘部会長

「開拓の祖」岡田孤鹿の子孫が25年ぶりに墓参



岡田孤鹿さんの墓碑で記念撮影する大坪さん(中央)と岡田さん夫妻

厚真町の開拓の祖として町史に名が刻まれる岡田孤鹿(天保5～明治39年)の玄孫で、福岡県久留米市在住の岡田哲也さんと妻加代子さんが9月6日、25年ぶりに専厚寺の孤鹿の墓碑を墓参し、お墓を世話する大坪頼幸さん(豊丘)たちと旧交を深めました。

墓碑は、地元の有志たちが毎年掃除をするなどの世話を続けます。哲也さんは「地震で倒れたお墓を、有志の皆さんが直してくれたと聞きました。また、皆さんでお墓を掃除していただいていると聞き、心から感謝しています」と、大坪さんたちにお礼を述べました。

哲也さんは「高齢になりましたが、思い切って訪問できて良かった。厚真の人は優しく親切。正しい事実を知り、それを伝えることが私の仕事です。1年に1度ぐらいは、厚真町を訪れたいです」と笑顔で話しました。

宇隆地区に展望広場が完成 日胆地区測量設計協会に善行賞を贈呈



整備された宇隆牧場の展望広場



日胆地区測量設計協会(川又敏英会長)の善意で宇隆地区の厚真町有牧野宇隆牧場に整備していた展望広場が完成しました。町では8月22日に川又会長ら関係者をお招きし、同協会に善行賞を贈りました。

展望広場は、同協会設立50周年を記念した地域貢献活動の一貫で町に寄贈。幅約7m、長さ約14mのウッドデッキで、パーゴラ(日陰棚)も設けられました。川又会長は「思い出深い50周年になりました。素晴らしいまちづくりの実現を願っています」と話し、宮坂町長は「新たな観光名所として、この素晴らしい景色を皆さんと共有します」と感謝しました。町は、町有保全林からアクセスできる新たな散策路を整備し、来春、一般開放する予定です。

厚真町戦没者追悼式が8月26日、総合福祉センター青年室で行われ、遺族や来賓約50人が犠牲者118人を悼み恒久平和を誓いました。

宮坂町長は「平和を堅持する知恵を次世代に継承し、私たち一人ひとりが平和を希求するために努力します」と式辞。来賓の渡部議長は「戦争の悲惨さを風化させることなく、健康で心豊かな社会づくりに全力を尽くすことを誓います」と追悼の辞を述べ、町遺族会の加勢敏和会長は「戦争の悲惨さと尊い命が犠牲になったことを次世代に語り継ぐことが遺族の務めです」と謝辞を述べました。

戦没者追悼式で犠牲者を悼み 恒久平和を誓う



式辞を述べる宮坂町長



浜厚真海浜公園でゴミを拾う会員たち

厚真ライオンズクラブが浜厚真地区でゴミ拾い

厚真ライオンズクラブ(高田芳和会長、36人)は8月27日、浜厚真野原公園と浜厚真海浜公園でゴミ拾いのボランティア活動を行いました。

環境保全活動の一貫として、昨年からは実施していて、会員20人が参加しました。参加者はビニール袋を片手に公園内を歩き、1tトラック1台分のごみを回収しました。